2011年12月22日発行

きぬ・こかい新聞

発行
国土交通省
下館河川事務所
きぬ・こかい情報発信局

〒308-0841
茨城県筑西市二木成1753
TEL 0296-25-2161
HPアドレス
http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/

安全パトロール実施

出水期が過ぎ鬼怒川・小貝川の各管内で河川の工事が開始されました。

下館河川事務所では、安全な工事の施工のために安全パトロールを実施しています。

水海道出張所では十二月五日(月)に、各工事現場の点検を行いました。パトロールでは、各工事施工業者、事務所、出張所職員が各現場を点検し、点検後、工事事故を防止するための安全体制の確認や指導が行われました。その他全出張所管内で安全パトロールを行い安全対策に努めて工事を施工していきます。

鎌庭出張所・水海道出張所管内
工事現場の安全パトロール状況

鬼怒川・小貝川で河川工事始まりました
上平低水護岸工事

下館河川事務所氏家出張所管内では、鬼怒川の塩谷町上平地先で、**「上平低水護岸工事」**が行われています。

鬼怒川の中流部では、洪水により河岸が一気に削られる状態が発生しています。

今年九月の台風十五号の出水によって同地先においても河岸の浸食がさらに進んでいます。現在その対策として、河岸や堤防が削られ崩壊しないよう「護岸」を施す工事を行っています。

上平低水護岸工事

普段水が流れているところ(低水路)の護岸を**「低水護岸」**と呼び、堤防に護岸を施すことを**「高水護岸」**と呼びます。
また、洪水などで河岸が削られ急速に復旧する必要がある場合は、**「災害復旧」**を行います。

台風15号の出水状況

河川の工事にあたり、堤防の上の道路の通行止や工事車両の通行など地域や河川を利用される皆様には、ご不便、ご迷惑をおかけすると思いますが、ご理解、ご協力をお願いいたします

鬼怒川・小貝川通報連絡センター
水質事故対策訓練

鬼怒川・小貝川通報連絡センター(下館河川事務所)では、十一月三十日(水)栃木県宇都宮市の岡本頭首工上流(鬼怒川八十三km付近)において、鬼怒川・小貝川流域の自治体等四十六名の参加で水質事故対策訓練を実施しました。

下館河川事務所からは、今年度の水質事故状況の報告を行い、栃木県鬼怒水道事務所の若色水質課長から、「水中に混合された油」と題して講義をしていただきました。

訓練内容の説明後、参加者三十名が二班に分かれて実働の訓練を実施しました。

■水質事故を発見したら、すぐ関係機関に通報を！

鬼怒川・小貝川およびその支川で、(魚が浮いている、油が流れている、異臭がする、川の色が変である、異常に泡が発生している)などの水質異常を発見した場合は、すぐに鬼怒川・小貝川通報連絡センターまたは最寄の市町村役場・消防署までご連絡ください。

講義「水中に混合された油」

オイルマット布設、へい死魚の回収

訓練内容の説明

水質事故の連絡先

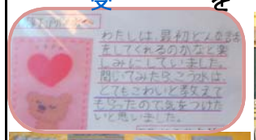
- 鬼怒川・小貝川
  通報連絡センター
  国土交通省
  下館河川事務所　管理課
  TEL：0296-25-2169
- 最寄の市町村役場
- 最寄の消防署

河間小学校で出前講座開催
「小貝川の水防と自然について」

十一月十六日筑西市立河間小学校で、同小学校四年生と先生方計二十二名の受講で「小貝川の水防と自然について」の出前講座が行われました。

過去の水害や小貝川の生き物の話を興味深く聞いていた子供達から「洪水のこわさを知ることができて良かった。外来種生物がいるとは思わなかった。」など、感想を添えたお礼の手紙が届きました。

下館河川事務所では、出前講座を随時受け付けていますのでぜひご利用下さい



子供達からの手紙

興味深く説明を聞く子供達

「小貝川水害から25年　～語り継ごう小貝川の歴史～」シンポジウムを開催しました

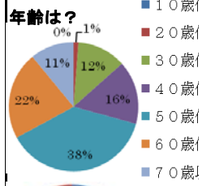
◆昭和六十一年八月、台風十号により茨城県内の小貝川がはん濫し大きな被害が発生してから二十五年が経ちました。また、今年は三・一一東日本大震災や台風十二・十五号など全国各地で大きな災害により被災しています。

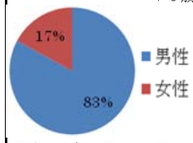
◆下館河川事務所では、十二月四日(日)に当時の状況を振り返り、この経験を風化させることなく後世に語り継ぐとともに、日頃の防災意識を高めることを目的に、シンポジウムを開催しました。

◆復旧時に事務所長でおられた福田昌史(現高知工科大学理事)の基調講演やはん濫の被害を経験した住民の方、先頭に立って住民救助や復旧に当たっていた筑西市・下妻市・常総市の消防団長らによるパネルディスカッションを行いました。

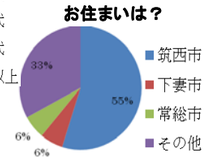
◆約二百人の参加者からは「体験者の生の声を聞けて被害の大変さがわかった、復旧の苦労が理解できた、様々な機会を通じて語り継いで行かなければならない」などのご意見をいただきました。

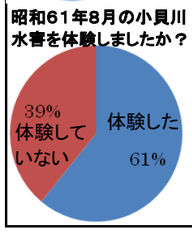
◆屋外で同時に行われた体験コーナーには、親子連れをはじめたくさんの地元中学生など約百人の参加があり、自然災害体験車や、地震体験車、降雨体験車などに乗り、災害の再現などを体験していました。水防活動の際に使われる、土のう作りや色々な紐結びの方法も体験されていました。災害の恐ろしさを感じ災害に備える心構えを常日頃から持っていただけるきっかけになったことと思います。

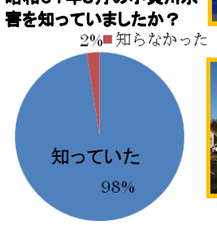




シンポジウム参加者アンケート結果







体験コーナー

ひも結び

土のう作り

降雨体験車

地震体験車

自然災害体験車

当時の水害写真を見る地元の方々

パネルディスカッション

和太鼓こゆきの演奏

基調講演

下館中学校吹奏楽部の演奏